



花みずき



第18期 第4号
 発行者代表 松本奈美
 編集者 中川和哉

主 題 共にいてくださる主を信じて

信仰と希望と愛

主題聖句 「それゆえ、信仰と、希望と、愛、この三つは、いつまでも残る。

その中で最も大いなるものは、愛である。」コリントの信徒への手紙一 13:13

「やっぱ好きやねん！

ルーテルが好きやねん。」



市原正幸牧師 (今年3月に西宮教会にて定年退職を迎えられました。)

女性会連盟の今期は、総主題「共にいてくださる主を信じて —信仰と希望と愛—」を掲げて共に歩んでいます。折しも今年2017年は、マルチン・ルター(ルーテル)の「宗教改革500年」の節目の年度です。例年にも増して多くの行事が計画されています。どうぞご一緒ください。そして私達夫婦は、今年の3月31日で46年間お仕えした、日本福音ルーテル教会を定年退職して、引退牧師へと身分が変わります。「るうてる」(3月号)で、退職にあたってのご挨拶をさせていただきましたが、46年全てが各個教会と各地区での働きでした。徳山教会・西中国地区で8年、岡山教会・東中国四国地区が8年、西宮教会・関西地区には、1990年から阪神淡路大震災(1995年)の体験を挟んで、定年までの実に27年間となります。西教区で43年間になります。それぞれの働きは、会員とご家族、お交わりを許された方々の忍耐と包容力の大きさに支えていただいていたものです。感謝を忘れずに進んで参ります。これからもよろしく願いいたします。

西宮教会の聖壇に設置されている聖卓には、「信」「望」「愛」の三つの漢字が立体的に張り付けられています。総主題の三文字です。その聖卓の前で司式をし、祈りを合わせました。その聖卓に背後から見守られ、押されてメッセージを取り継がせていただきました。聖餐式はこの聖卓を囲みます。洗礼式、堅信式、結婚式、葬儀、祝福式も記念式も、全ては、この三文字に見守られ、この三文字が土台となり、目標ともなり、憧れにもなってくれています。真摯な事柄である信仰生活を、好き嫌いで表現することに、顔をしかめる方もおられるとの危惧は承知の上で、「やっぱり好きです。ルーテル教会が。やっぱ好きやねん。マルチン・ルターが。」

これからもこの教会で、三文字に生かされたいし、生きたいと願います。礼拝が好きです。礼拝式文も讃美歌も好きです。オルガンも宗教曲も大好きです。司式も説教も、聖書も、聖書の学びも。教会のみなさんとの交わりの日々も。そして召され、託される働きのすべてを、これからも大好きでいたいと、主に祈る者でありたい。主の見守りと祝福が皆様の許に。

市原正幸(引退牧師)プロフィール

1946年 大阪府生まれ	1971年 日本福音ルーテル教会 教職接手礼
1971年~1974年(延岡教会/九州教区)	1974年~1982年(徳山教会/西教区)
1982年~1990年(岡山教会/西教区)	1990年~2017年(西宮教会/西教区)

西教区 女性会紹介

天王寺教会 女性会

何と素晴らしい事でしょうか!!
ご覧の写真は、70 余名の方々が復活祭の礼拝に、神様のお招きを頂きました。ご病気やうてるホームにお住居の方々には寄せ書きをお送り致しました。

当教会はJR桃谷駅より西へ10分、附属真生幼稚園と共に存在して居ります。

女性会は若いメンバーが少なく、70代が一番多く、活動が困難になって参りましたが、第三日曜日は牧師の御指導のもと、聖研、礼拝にて聖書朗読、食事作り、結婚式の準備等を致します。

また、うてるホームにて有志によるコンサート、教会の聖歌隊にも加わり、聖霊降臨日、全聖徒の日、降誕祭等にて賛美。音楽は常に基礎的な練習の積み重ねが大事で、年令に関係なく、いつ迄も唱える幸せが感じられます。讚美の時には、音楽に畏敬の念を持ち、小さな活動ですが、喜びを持って続けて参りたいと思います。

桑野住子



シオン教会徳山チャペル 女性会

シオン教会徳山チャペルは仲の良さと行動力が自慢、それぞれが与えられた賜物を活かして毎週の礼拝を支えています。



イースターには男性会員と協力して卵探しと持ち寄り昼食会で子供たち孫たちに楽しんでもらいました。

教会内外も計画的に少しずつ整えられ、昨年植えたヤマボウシとシバザクラがみなさんをお迎えしています。

新来者も与えられ小さくとも活気ある礼拝が守られています。

平岡いづみ

※写真はイースターに幼児洗礼をうけた水原希子ちゃんと出席者一同

福山教会 女性会

会員数は4名で、年齢別では50代、60代、70代、80代がそれぞれ1名ずつです。人数は少ないですが、みんなで教会を支えるのだという意識を持って頑張っています。

定例会は毎月第三土曜の午後行っています。まずしおりに沿って聖書研究を行います。聖書の箇所を輪読して谷川先生の解き明かしを聞いてから、そのあと全員が感想や意見を述べるようにしています。日頃の生活の中で感じたことや悩みなども交えながら活発に意見を出し合っています。

毎月1回教会でクッキー作りをしています。なかなか美味しいと評判で、よく売れます。5月のバザーでも販売しますがお昼ごろには売り切れてしまいます。

教会の年間行事としてバザーを毎年5月の福山ばら祭りの日に開催しています。教会員が少ないのでボランティアさんたちに協力してもらいながら続けています。新聞に広告を出したりチラシを配ったりする宣伝効果もあってか、一般の方々にも教会バザーを知っていただけるようになり、毎年来られる常連さんも増えています。バザーの売上の一部は福祉施設への献金や、ばら公園のバラオーナー会への寄付、地震や災害への支援など有効に使っています。

女性会と言えば食事作りがありますが、クリスマスやイースターなどの祝会の日と、毎月の役員会や女性会の日には食事を作ります。ちなみによく出てくるメニューは炊き込みご飯、ちらし寿司、カレーライスなどです。

女性会としてこれといった特別な伝道活動はできていませんが、福山教会がこの場所にあるということを知っていただいて、バザーやコンサートなどに気軽に足を運んでもらえるように、地域の皆様との親しい関係作りを続けたいと思っています。

三原澄恵



神戸教会 女性会

今年は「宗教改革500年」。神戸教会は、来年「宣教100年」を迎えます。このための色々な計画が少しずつ具体化してきています。その一つに「記念誌」の編纂があり、女性会の歩みも書けたらと記録を少しずつ読み進めています。活動内容は今とほとんど変わっていません。聖研を中心とする毎月の例会、各集い、研修会への参加。その時々、人数、年齢の異なる中で精一杯の歩みがありました。

さて現在、例会の出席は8~10名くらい。90才、80才に届こうとする方達が殆んど。そして親子ほど離れた3名位。1~2時間かけての出席。それだけで「すばらしい！神戸」と思うのです。自慢は（他を知らず）イースターやクリスマスの愛餐会。持ち寄りの和、洋、中、腕を振るってのご馳走が並びます。（見せてあげたい！）心の糧は牧師を通しての聖書のことば。身体

の糧は女性会のお料理?!年2回のミニバザーでは、お惣菜を販売。昼食とお持ち帰りで買って頂き、女性会の活動費に。他、花壇のお世話、来られない兄弟姉妹をおぼえてクリスマスカードの寄せ書きも。先日はみんなで庭の”草取り“。

11月には大掃除。今、決して「元気溢れる活動」は出来ないけれど、先輩たちのように、”今できる事“に、心を尽くし、魂を尽くし、力を尽くして積み重ねて行きたいと願っています。

山本幸子



第24回 春の全国 Teens キャンプ 感想

私たち女性会でも支援しているTNG春キャンが、テーマ「マルチン・ルター ～からっぽの手を神さまに～」のもとに行われました。(3/28～30@東京高尾)

今年卒業したキャンパーと、昨年キャンパーを卒業してスタッフ初参加の2名の感想をお伝えいたします。招かれる側から招く側への移行に、信仰が継承/共有されていることを感じました。

尚、キャンプの詳細な報告はるうてる5月号P.2(市原悠史牧師記)や、後日送付される「思い出集」をご覧ください。

黒田啓太(神戸教会)

昨年、神戸六甲で春のティーンズキャンプを卒業してからは一年。今年もまた春キャンに関わることができて嬉しく思います。初のスタッフとしての参加であったものですから、キャンプが始まるまでは、不安ばかりが続いておりました。

今まではキャンパーとして、学びつつ楽しむことができれば、いや、楽しむことを主な目当てとしていたかもしれませんが、あまり深く考えてキャンプに臨んだことはなかったと思います。しかし、今回は立場が違います。スタッフは、どうすればキャンパーの子達が楽しめるか、そして春キャンで学んだことをどうすれば活かせるかを考えなくてはならず、そんなプレッシャーと戦いながらの準備でした。真面目な文調は限界なので崩していきますね。

春キャン前も、始まってからも、めちゃくちゃ大変やったんですけど、なんとかやりきって、キャンパーの子達から「楽しかったよ!」の一言がもらえて、それだけでも、やってよかったと思えるくらい経験ができました!

新美愛(大江教会)

こんにちは、初めましての方もいらっしやると思います。2016年の4月に、熊本の大江教会から進学で関西きました新美愛です。こちらでは神戸教会に通っています。

スタッフとして初めての春キャンはみんなの愛を再確認するものとなりました。去年までキャンパーとして参加していましたがその頃は、スタッフがこんなにも忙しいものとは思いませんでした。イースター前、牧師先生はすごく忙しい時期です。それでも春キャンのために自分の生活を削れること、これは春キャンのことを愛しているからだと思いました。わたしはキャンパーの頃からずっと、この愛を受け取っていたのだと思い、涙が出るほど嬉しくなりました。

同級生の存在もすごく大きかったです。初スタッフでいきなりMCだったひかり、すぐにへばるわたしの何倍も動いてくれた啓太。キャンパーの笑顔をたくさん撮影してくれたよしのりくん。私たちの出会いの場所となった春キャンに、スタッフという形で奉仕できること、嬉しかったです。また来年も参加します。

椎葉渉(大江教会)

今年のテーマは、ルターの宗教改革500年目という節目の年で、ルターについて皆で考えました。最初はルターの知識なんて、学校の世界史の授業の時少し触れたくらいで、ルターや宗教改革の詳しいことまで知りませんでした。しかし、春キャンでスタッフの皆さんが劇や絵などでとても分かりやすく楽しくルターのことを学べました。

そして、今年の春キャンで卒業になりました。子供キャンプから参加していて皆勤で行けてとっても誇りに思っています。この子供キャンプ、春キャンで出会えた友達とは、学校の友達よりいろいろ話せるし、信頼もできて、この繋がりは一生消えないと思うし、一生大切にしていきたいと思っています。

この春、関西学院大学の神学部に入學しました。熊本の大江教会出身で今は神戸教会へ通っています。神学部では、ドイツ語やキリスト教の歴史などについて学んで、将来しっかりと牧師になれるようにしっかりと勉強していきたいと思っています。卒業後は三鷹にあるルーテル神学校に行ってルーテルの牧師になりみんなに質問せたいと思っています。来年からはスタッフとして春キャンの楽しさをみんなに伝えられたらいいなと思います。



宗教改革 500 年記念大会

～ 参加者の方々からの感想 ～

ルターバウムクーヘン →



◎宗教改革 500 年記念大会で一番印象に残ったのは、水野隆一先生の講演です。

配られた賛美歌集はてっきり礼拝で使うものと思っていたのですが、講演のためのもので、「全曲歌いますよ」とのお言葉にびっくり！先生のテンポの良いお話も皆で歌う賛美歌もとても楽しく、また1曲1曲解説して下さったので、自然と歌詞の意味を考えながら歌っていました。するとその歌詞に包み込まれるような温かい気持ちになってくるのを感じました。

私は小さい頃、「主われを愛す」の歌詞を「しゅわれを愛す しゅわつ よければ…」と覚えていたのですが、歌詞の本当の意味を知った時、心にジーンときたことを思い出しました。

小西敬子 (大阪教会)



◎大阪教会の女性会にも参加できていない私ですが、この大会が大阪教会で開催されるということで、今回は！と参加致しました。

時間前から、たくさんの方が大阪教会に来られました。子どもの頃 CS キャンプでお世話になった先生方のお顔もありました。内気な私に声をかける勇氣はありませんでしたが、密かに懐かしく嬉しい気持ちになりました。

開会礼拝、そして水野先生のお話—今回用意されていた讃美歌集の全曲をみなさん一緒に歌いに歌う♪というものでした。楽譜を読む事に明るくない私にとって、馴染みのない曲を歌うのは大変で、無駄な抑揚がついてしまいましたが、それはそれでおもしろかったです。礼拝で歌うのは自然な事で、深く考えていませんでしたが、讃美歌を歌う事で、より力強くみことばを感じる—染み入ると感じました。

神様と私をイメージする時「イエス様の前に跪き祈る子ども」の絵が浮かぶのですが、今回は「大きなブドウの木」や「羊飼いと羊の群れ」—うまく言えませんが、兄弟姉妹と歴史を感じる時間でした。ありがとうございました。

石井恵美 (大阪教会)

◎西教区の大会出席は 19 年ぶりでした。11 年前にドイツへ、夫と共にルターの足跡を訪ねたことを思い起こしながらの今回の「宗教改革 500 年・はなみずきの集い」。特にうれしかったのは二つ。一つは女性会に入会された松山教会の山口敏美姉と同宿。信仰や教会について話し、親しくなれたこと。彼女のルーツである西日本ルーテル教会の千金町子師は共通の知人であった。二つ目は我が宇部教会の阿部勝兄の奏楽で賛美したこと。いつもの 10 倍の人数の中で。その音色は強く心にしみている。



今、費用のために全体の集会に参加できないでいる地方教会。何とかならないかと思っている。

藤井貴子 (宇部教会)



教区花みずきの集い 開会礼拝



講師：水野隆一先生



懇親会 始まり



懇親会の様子



松山教会女性会 懇親会にて



大阪教会女性会 懇親会にて

◎余寒も和らいできた3月19日、大阪教会で花みずきの集いがあり、関西学院大学神学部教授水野隆一先生から『私たちが信じ、歌うこと～宗教改革500年は讃美歌誕生500年!～』と題してお話しをうかがうことができました。先生は日本基督教団の正教師でもあり、さらに讃美歌委員会の委員長を務めておられ、『教会讃美歌』（2000年）と教団発行の歌集との比較から、又、日本の教会で歌われてきたものを『教会讃美歌』に収められている歌を中心に、実際に歌を交えわかりやすくお話し下さいました。

その中でも私は、ルター作「天にいます父よ」（教会讃美歌増補試用版）のアカペラでの讃美が強く心に残りました。1番から9番までを左右2つに分かれた参加者で交互に歌ったのですが、それぞれの冒頭、水野先生が徳善義和先生による直訳（『礼拝と音楽』167号）を読みあげて下さり、より言葉の意味を感じながら歌うことができました。「み言葉を美しいメロディにのせて歌うことで会衆に広めようとした」というルターの思いが、2017年を生かされている私達の内にも繋がっていることを痛感し、とても神秘的な気持ちになりました。

意義深いお話しを熱く語って下さった水野先生と、この機会をつくって下さいました役員の皆様方に心より感謝いたします。

細馬晶子（西条教会）

◎3月に大阪教会で行われた西教区宗教改革500年大会に行ってきました。私自身、仕事もしていますし、都合がつかぬかなどかなと思ったのですが、こんな機会はもうないと思い、行くことを決心しました。岡山から大阪までいろいろなことがありましたが、参加してよかったと心から思える、素晴らしい大会でした。

まず、音楽が好きな私にとって最高にうれしいこと。花みずきの集いで、讃美歌に関する講演があったことです。大好きな讃美歌を約2時間、力いっぱい歌えて幸せな気分になりました。讃美歌を力強く歌うことで、神さまがそばにおられることが感じられ、あらためて讃美歌の偉大な力を実感できました。

2日目の最後には、大阪ハインリッヒ・シュッツ合唱団の特別演奏会もあり、その素晴らしいハーモニーで私の心は癒やされ、至福のひとつときでした。本当にこの2日間、ステキなことばかりで参加できて幸せでした。

滝川祐子（岡山教会）



集合写真

◎「あなたがあなたのことではいっぱいになっていた時は過ぎた。キリストが来られたのだ！あなたの救いのためにすることは(もう)何もない。ただ一つ残されていることは、隣人の救い。そうせずにはおれない。なぜなら、私の内から感謝と賛美があふれ出ているから。」・・・永吉牧師による開会礼拝(第一コリント 9:16.19)で始まる。

関西学院聖歌隊隊長で常任指揮者でもある水野隆一関西学院大学神学部教授は、「讃美歌を歌うことで信仰が養われている。」「讃美歌によって証しをし、一緒に歌う人を増やしたいですね!」と、『私たちが信じ、歌うこと』の意義を、明白にされた。「今日の私は、昨日までの私が食べた物で生きている」・・・まさにその通り。

宗教改革 500 年目に、ルーテル教会員として生きている幸せをかみしめた二日間。課題も浮かぶ。お世話してくださった皆様に深く感謝をささげる。
國吉純枝 (厚狭教会)

◎四旬節第3主日礼拝を終えた3月19日午後、大阪教会を会場に「花みずきの集い」が開催されました。

ロビーには、久々の再会に笑顔の対面をしながら、喜びを分かち合う方々がたくさんおられました。関西学院大学神学部の教授であり、日本キリスト教団讃美歌委員長であられる水野隆一先生をお迎えして、『讃美歌誕生500年!～讃美歌を通してみ言葉に養われる～』をテーマに講演会が開かれました。

「ルーテル教会は歌う教会であり、ルーテル誕生500年は、讃美歌の誕生500年でもあると思います。今日は讃美歌を学ぶより、讃美歌を歌いましょう!」と、はきはきとした先生のご指導の下、全部で11曲の讃美歌を皆で歌いました。

私たちの「教会讃美歌」とその「試用版」の中から、キリスト教史をたどるように、その時代をよく反映した讃美歌を選んで、先生が説明を加えてくださり、それを味わうように歌っていきました。水野先生のご教示のとおり、教会讃美歌は、キリスト教史を見事に網羅して編纂されていて、大変共感し感銘を受けました。脈々と受け継がれてきた信仰と賛美の歴史に思いをはせ、宗教改革500年という新しい時代の幕開けにふさわしい教会讃美歌(増補版)の発行を心待ちにしています。
永井幸恵 (広島教会)

◎今回大阪に行って、青年が集まることの大切さを知りました。

西教区は京都から下関までのとても広範囲のため、みんなが一緒に集まるということはなかなか大変です。その中で、今回青年が8人も集まり交流できたことは、とても大きな一歩だったと思います。1日目は、女性会の講演会・懇親会にも参加させていただき、夜には、先輩の青年の方々と楽しい話やためになる話、真面目な討論をしながらワイワイと過ごすことが出来ました。松本先生と竹田先生も参加して下さいました。初めて会った人や以前から知っている人もいましたが、みんなで話をしながら一緒に笑い合えたことは、私の中の一番の思い出です。

これからも、この500年の集まりをきっかけに、若さをとりえとしている青年会がますます交流を深め活動していけたらと思います。最後になってしまいましたが、ご支援をして下さった女性会の皆様、本当にありがとうございました。

伊藤亜夢美 (広島教会青年)



記念感謝礼拝



礼拝中の青年たち

大会プログラム

3/19

教区花みずきの集い 開会礼拝
教区花みずきの集い 講演と讃美(水野隆一先生)
懇親会

3/20

記念感謝礼拝
釜ヶ崎ディアコニア活動: 喜望の家報告
昼食/持ち寄り 100円均一チャリティ・ミニバザール
レポート報告(鈴木浩牧師)
特別演奏会(大阪ハイソニック・シュッツ合唱団)
記念大会記念感謝礼拝・派遣聖餐式



シュッツ合唱団



派遣聖餐式

ひらきなおる
開木直氏による

「たいして役に立たない
宗教改革 500 年企画」



「マルティンとケーテ」(その④)

内助の功を發揮した働き者のケーテですが、ノー天気男マルティンは、結婚7年目の頃少々愚痴をこぼします(「♪浮気♪」じゃない)。曰く「泣きつかれて困る」、「お前はわしに話をするときには主の祈りを五回唱えてからものを言え」。つまり、口うるさくこまごまと言うな、ということです。極め付きは「今度わしが結婚するときは、石から切り出したような無口な女と結婚しよう」。ウム、わかるなあ!古今東西夫の悩みは共通かあ…我が家も(以下検閲につき削除)。でも、それぐらいケーテの苦勞が大変だったということでしょう。

ところで、このマルティンの愚痴は、「卓上語録」、れっきとした「ルター全集」に残されているものからです。ドイツ語ワイマール全集で6巻もあるそうですが、ルター邸に下宿していた何人かの学生が、食卓等で話されたルター先生の言葉、会話を記録したものです。で、この「愚痴」を筆記したのは、ファイト・ディートリッヒ君という忠実な学生で、他にも説教や講義録等しっかり記録している人です。この「愚痴」は、他の人は遠慮して書かなかったのですが、彼だけがマジメ?に記録しました。マルティンとケーテ夫妻の探求のためには貴重な資料です。ところが、この筆記の後、彼の名前はぱったりと出て来なくなります。それはなぜか?想像つきますね!!ケーテ夫人の検閲に引っかかって逆鱗にふれたのです。下宿生としていつも近くにいて何でもかんでも書き、よりによって私のこんな悪口まで書くとは何事かと柳眉を逆立てて怒ったのです(見て来たような描写ですが、我らが徳善先生の話ですから、きっと見て来たのでしょう!)。それで、彼はルター邸から追い出され、ついにはヴィッテンベルクからもいなくなってしまうとか。いやあ、ケーテ恐るべし!最後にマルティンの述懐。「悪魔、罪、良心の怒りを耐えることができるなら、ケーテの怒りも我慢しよう。足を踏み鳴らして反抗してもわたしの許から誰も何も得られない」。(続く)

♥ 会長より一言 ♥

メールでも配信いたしました。500年記念大会教区花みずきの集いを無事に終えることができました。皆さまのご協力のもと、各プログラムの学び、懐かしい再会や新しいお出会い等々の豊かな一時となりました。また、女性会の軸でもある「支援」も共にできましたことも感謝です。ありがとうございました。尚、大会の報告はうるてる5号(伊藤節彦師記)をご覧ください。

今年の各地区連絡会を秋に開催いたします。詳細は追って連絡しますが、**せっかくの集まりの機会です**ので、話し合いの他に**お楽しみ企画(学び等でも!)**のアイデアやご要望を是非!お寄せくださいませ。たくさんのお声をお待ちしています。

2016年度 ご召天者



氏名	召天年月日	享年	教会名
太宰三四子	2016/1/13	92	西宮
山下豊子	2016/1/29	88	天王寺
篠田好子	2016/1/29	86	京都
安田勢津子	2016/2/2	83	広島
小田千恵子	2016/3/17	85	大阪
山川泰子	2016/6/30	78	豊中
安達悦子	2016/11/27	80	シオン益田

♪ 記念大会参加者数・献金額 ♪

- ・参加者(高校生以上):教区花みずきの集い106名(女性会員70名)、懇親会100名(51名)、記念礼拝178名(98名)
- ・席上献金:うるてるホーム30,000円、喜望の家30,000円、教区女性会31,650円
- ・100均チャリティーバザー献金:熊本地震建物支援21,500円

編集後記

原稿をお寄せくださいました皆さま、ありがとうございました。
花みずき第4号の編集を、中川和哉兄(西日本福音ルーテル所属、神戸ルーテル神学校3回生)に依頼したところ、快く引き受けてくださいました。心より感謝♡(松本)

中川です。この度は会長より大任を仰せつかり、私としてもとても感謝の思いです。ある旧知の大阪教会の女性にこの編集の件を話したところ、「花みずきは西教区女性会を盛り上げる大切な役割を担っています」と教えて下さいました。私もルーテル派の人間として、西教区の、そしてルーテル教会の助けになれば、と切に願っています。心より感謝☆(中川)

